

IFRS news

統合報告－我々は前進しているか？

May 2014

統合報告は、財務諸表作成者、投資家、規制当局にとってホットピックであり続けています。PwCのコーポレートレポート部門のディレクター、マーク・オサリバが、2013年のレポートイングシーズン後の現状について検討します。

年度末の忙しいレポートイングシーズンを終え、多くの人々がほっと一息をつく時期になりました。しかし統合報告についてはいかがでしょうか。進展があったでしょうか、それとも締切りの忙しさの中で埋もれてしまったのでしょうか。

統合報告フレームワーク(以下、「IRフレームワーク」)は、2013年12月に国際統合報告委員会(IIRC)によって創設されました。IRフレームワークは、事業全体の結合性とより目的適合性の高い情報をより明確に伝達する方法を評価する好機として企業に受け止められました。IRフレームワークの適用は強制ではありません。しかし企業の報告方法を改善しているのでしょうか？

調査でわかったこと

PwCの調査¹では、経営者は既に変化に対するニーズに応じているが重要な課題が残されていることを示しています。この調査は、10テリトリーの20業種にわたる400社を対象としています。

主な調査結果

- 既に多くの企業が、戦略的優先事項、主要リスクおよび主要業績指標などの、IRフレームワークの主要な要素を報告対象としていた。
- 結合性および将来の方向性などの、その他の指針への対応はあまり進んでいなかった。
- 南アフリカ、英国、ドイツでは多くのIR原則の導入が進んでいるが、これは規制の変更が要因と考えられる。
- 一部の業種、特に鉱業、化学、不動産が他業種よりもやや進んでいる。これはより進歩的な利害関係者が幅広い情報を要請していることを反映している。

¹ <http://www.pwc.co.uk/assets/pdf/integrated-thinking-flyer-dec-2013.pdf>

課題

依然として数多くの課題が残っています。

- サイロの克服—しばしばレポートングにおいて結合性の欠如が示されることがある。より良い結合性は統合的な思考の鍵だと考えられている。
- 将来への視点—多くの人々が「バックミラー」アプローチをとり、将来の見通しよりも昨年を重視している。
- 価値創造—多くのレポートングでは、主要な関係性と組織外のリソースがどのように価値を創造するかについての洞察が欠けている。
- 業績—レポートングでは、依然として、複数の「資本」についての思考よりも財務業績が重視されている。

2013年度のレポートングについて

最近PwCは、2013年のレポートングサイクルにおける英国企業の検討を開始しました。その結果によると、戦略およびビジネスモデルのレポートング、ならびにこれらの概念の他領域(KPIおよびリスクなど)への統合について、継続的な改善がみられることが示されています。FTSE350指数企業に関する洞察については[コーポレートレポートングブログ](#)をお読みください。

IFRSはどのように適応するか

IASBは、統合報告フレームワークの開発における協力関係を深めるために、IIRCとの覚書に署名しました。またIASBは、引き続き、広範囲にわたる開示イニシアティブに取り組んでいます。このイニシアティブは、実務上の重要性の検討、「純負債」開示の研究、矛盾や重複を識別し評価するための既存のIFRS開示の再検討など、多数のプロジェクトから構成されています。

このプロジェクトの第1ステージは、IAS第1号についての狭い範囲での修正を提案した公開草案でした。この提案によると、IFRSの開示要求事項への準拠に関して、IFRS財務諸表の作成者にさらなる柔軟性が提供される可能性があります。詳しくはPwCの速報解説[Straight away](#)をご参照ください。

開示イニシアティブの長期的な目標は、どのようにすればIFRSによる開示が改善されるかを検討することです。考え方が統合報告の原則を支えるべき開示モデルに向かっていることは明らかなようです。